

安全対策の確実性



消防庁消防研究センター 所長 渡邊 洋己
Hiroki Watanabe

先日、長崎市の認知症高齢者グループホームにおいて火災事故が発生した。当該用途の建築物では、規模は小さくとも自力避難困難な高齢者が居住することから、初期消火に失敗した場合、避難誘導で全員を安全な屋外に避難させることが困難で、多くの犠牲者を発生する可能性を有している。そのため、防止のためには、人の手を介さない確実な消火手段を備える必要があり、現在、スプリンクラー設備の設置が強化される方向で調整が進められている。安全対策を徹底するためには、人の操作を介さないハード対策を備えることは重要である。

このようななか、最近コンビナートで発生した大きな事故に関する社内事故調査委員会の公表報告書を複数、読む機会があった。いずれの事故も、設備の欠陥が原因というよりも、操作者が状況に応じて必要とされる操作を実施していないことが主要な原因となっていた。もちろんマニュアルには、当該操作をすることが明記されていたとしても、様々な操作者に確実な実施を期待することは困難で

ある。まして、近年、熟練技術者の退職に伴い、知識、経験等が十分引き継いでいないとの声を聞く。怠った場合に爆発に至るような重要な操作は、マニュアルに記して教育すれば済むということではなく、確実に操作が実施されるようハード的に措置することが必要と思う。運転操作には状況判断が必要なので人が介在すべきという考え方もあるのかもしれないが、操作しなければ自動的に操作されるよう措置できるはずであるし、特に緊急時などは人にのみ委ねた場合のような失敗はない。

自動車の運転操作に関しても、最近は、人の操作を補う衝突防止装置の普及が進みつつある。人がブレーキを踏まずに事故が発生しそうな状況になれば、自動的にブレーキを掛ける仕組みである。

ひとたび事故を起こせば施設の周辺を含めて多大な影響を及ぼすコンビナート事業所に関しては、操作面に関してもハード的な事故防止対策が徹底されることを期待する。

公益財団法人総合安全工学研究所 役員

理事長 田村 昌三 東京大学名誉教授
(代表理事)
専務理事 小川 輝繁 横浜国立大学名誉教授
(執行理事)
常務理事 福富 洋志 横浜国立大学大学院教授
理事 篠原 一彦 東京工科大学教授
理事 都築 正和 東京大学名誉教授
理事 高木 伸夫 (特非)安全工学会副会長
(有)システム安全研究所所長

理事 花岡 一雄 東京大学名誉教授
理事 丸山 修 JR東京総合病院名誉院長
理事 三宅 淳巳 住友化学(株)執行役員
理事 安原 洋 横浜国立大学大学院教授
理事 若倉 正英 東京大学医学部付属病院教授
(独)産業技術総合研究所研究顧問
(特非)安全工学会保安力向上センター長
監事 田中 保正 元(一社)日本芳香族工業会専務理事
監事 向殿 政男 明治大学名誉教授